



●●● ハマキッズ・アートクラブ ●●● 子どもたちの創造力を育み、集中力を養う造形プログラム

森の素材でモビールづくり 6月3日(日)

ドングリ、マツボックリ、木の葉などの自然の素材で動物や人形などを作り、モビールにする作品です。当初、子どもたちは初めて見る素材や接着用のグルーガン（ポリエチレン溶解銃）などを前にとまどっているようでしたが、スタッフやボランティア、保護者と一緒に次第に制作に熱中し、ドングリや木の実で動物を、葉っぱで人の顔など、思い思いの形を作り上げました。保護者の方々も子どもにかえって久しぶりの作業を楽しまれました。



最後は出来あがった動物や人の顔、そして個性豊かな造形物を自然のツルで作ったバランス用素材にぶら下げたり、貼り付けたりして完成！身近な自然に触れながら、素材に工夫を加える楽しさを味わうことができました。

(鈴木通弘・米長洋和)

星で遊ぼう！万華鏡とうちわをつくろう 7月15日(日)

夏の暑い中、30名ほどの子どもたちが参加し、万華鏡とうちわを作りました。横浜美術大学「星と彫刻のプロジェクト」の学生7名が指導にあたり、最初に万華鏡の作り方の説明があったのですが、元気いっぱいの子供たちは待ちきれない様子で、さっそく作業に取り組んでいきます。当日の会場で初めて出会った子どもたちもすぐに仲良くなり、話したり笑ったり楽しい雰囲気をもっていました。見学の保護者の方々にも和やかな様子が伺えま



した。指導の大学生も子どもたちのいろいろな質問に一生懸命笑顔で対応。切り紙を貼ったうちわも出来上がり、みんな大満足、万華鏡のように輝いた1日でした。

(高山健二・安室久美子)

アート散歩 vol.3 シルク博物館見学レポート

6月10日(日)10時～ 市民ギャラリー1名、ボランティア10名



1959年、横浜港開港当時の英一番館跡に建てられたシルクセンター内にあるシルク博物館は、今年4月にリニューアルされました。世界的に珍しい絹の博物館で、日本の絹の歴史、横浜が絹に果たしてきた役割、蚕の色々な生態や絹織物などについて展示しています。また、体験コーナーでは生糸や絹織物を手で触れたり、繭から糸繰りをしたり、はたおり機を使うこともできます。当日は大野副館長から絹の歴史や蚕の飼育と生産方法、絹製品の輸出について、展示物を見ながら解説していただきました。

蚕の生態だけでも大変興味深いものです。蚕は卵から幼虫になった後、4回脱皮して繭を作り、この繭から生糸を繰ります。糸の太さは約0.02mmで、日本女性の髪の毛が0.07~0.08mmですからとても細いのですが、1つの繭から取れる糸の長さは約1300mもあり、東京スカイツリー634mを往復してもまだ余る長さです。

今まで絹について詳しいことは知りませんでしたが、その生態や歴史、横浜港や貿易との関わりを知り、とても奥深いものがあると実感した見学でした。

(菅野隆夫・柴山昌子)

シルク博物館：横浜市中区山下町1シルクセンタービル 電話：045-641-0841
<http://www.silkmuseum.or.jp> 開館時間：9:00~16:30 休館日：月曜日(祝日の場合は翌日) みなとみらい線 日本大通駅徒歩3分、JR・市営地下鉄 関内駅徒歩15分

オススメ!

期間中ワークショップやトークもあるよ。
 詳しくは、<http://www.yaf.or.jp/ycag/>

横浜市民ギャラリー 子どもの芸術展 2012 開催!

日時：7月28日(土)~8月2日(木)
 場所：横浜市民ギャラリー1~3F

第36回ヨコハマ日曜画家展鑑賞

6月19日(火)~24日(日)まで、県内在住、在勤、在学の方が自由に出品できる、今年の日曜画家展が開かれました。24歳から84歳までと、幅広い年齢の日曜画家が参加されました。いずれも日曜画家ならではの明るくフレッシュで魅力にあふれる作品ばかりです。最終日には市民ギャラリー絵画教室の續橋先生、荒井先生、関口先生による230点の全作品について講評がありました。

(宮越寿雅子・安室久美子)



續橋先生の講評に耳を傾ける出品者のみなさん